

名取栄一翁伝



【名取栄一】明治6—昭和33(1873—1958)年。山梨県中巨摩郡生まれ。14歳の時、繭仲買の父の招きで御殿場に転住。翌年沼津に。名取商会を創設、沼津信用金庫初代理事長。昭和15年沼津市長

没後50年足跡は今：1

「沼津に築いた製糸産業」 全国有数の繭市場に

車が激しく行き交う国道414号沿いに立つ沼津市三枚橋町の市立図書館。ここに日本の繭相場を支配した市場があったことを知る人は今は、もう少ない。

山梨県出身の名取栄一＝以降、名取翁＝は大正五(一九一六)年、名取商会「沼津繭市場」を沼津駅前開設(昭和二年、三枚橋に移転)した。先行していた松崎市場との激しい競争を経て、全国相場を左右する市場に急成長させた。

名取栄一翁伝記は繁栄ぶりをこう記す。「初取引には新聞記者が詰め掛け、結果は全国に報道、あるいは直接横浜の貿易業者に打電された。名取市場は世界中にその名を知られるようになった」

名取翁は繭市場を興すとともに製糸企業の誘致にも精力的に取り組んだ。「千人挽(ひ)き規模」(沼津市史)などの大規模拠点が沼津繭市場の成長と合わせ計画され、四工場が進出した。

製糸企業の労務人事担当だった父と幼少時、長野県から沼津に転居してきた沼津信用金庫の堀田大洋専務(六五)は、「長野などから今日は三十人、次は何人と働く人たちを連れてきたと聞いた」と記憶する。

大正四年から十一年の七年間で沼津の人口は67%増えた。同期間に県が5%増だったことを見れば、企業誘致による人口増の大きさが分かる。

だが、世界恐慌が日本の製糸業に致命的打撃となった。沼津繭市場も昭和九年、強制合併を余儀なくされ

た。名取翁は実質的に経営に携わったが、戦時統制経済下の十三年、第一線から退いた。

戦後まで生き残った大製糸工場もやがて相次ぎ閉鎖。このうち二工場の跡には西友、イトーヨーカドーの大型商業施設がそれぞれ立地している。

「ようやく名取商会出身の名に恥じない会社になれた」。精密板金加工で高度な技術を持つ沼津市の安田製作所社長安田忠博さん(六〇)は、創業者の父・忠雄さんが生前、名取翁が創設、した沼津信用金庫との取引開始を、こう喜んでいてことを懐かしむ。

名取商会で働き、「名取翁の秘蔵っ子」を自負していた忠雄さんの鉄工所が軌道に乗ったのは四十年代。「それまでどんな苦しい時も沼津信金を頼らなかった。そのくらい名取に対する思い入れが強かった」と忠博社長は振り返る。沼津繭市場を中心に名取翁が築いた産業を、直接引き継ぐ企業は沼津に残されていない。だが、起業精神は受け継がれる。

◇

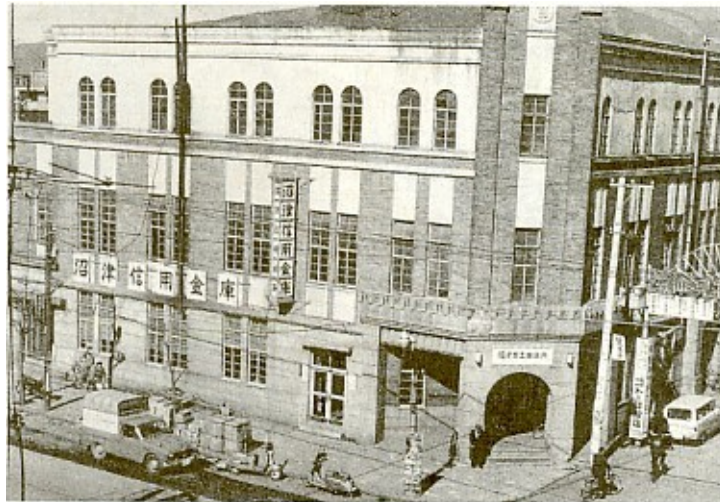
沼津繭市場や沼津信用金庫を創設、県政史上唯一の首相石橋湛山を静岡の選挙区に招いた明治から戦後の沼津政財界の重鎮、名取栄一が今年、没後五十年を迎えた。ひ孫の名取正純沼津ヤナセ社長が所有する原稿「名取栄一翁伝記」(未出版)を見ながら、名取翁の足跡と今を探った。(東部総局・海野俊也が担当します)

(静新平成20年11月21日「名取栄一翁伝」)

名取栄一翁伝2

没後50年、足跡は今・2

「沼津信用金庫を創設」
商都、戦災から復興



創立当時の沼津信用金庫本店。沼津商工会議所（当時）内に入っていた

昭和三十二年の成人の日。水上直行さん（七〇）＝現沼津信用金庫顧問＝ら成人式を迎えた沼津信金の五人の行員が、名取邸を訪ねた。初代理事長の名取栄一翁は緊張でコチコチの一人一人に笑いかけながら記念の万年筆を手渡し、「信金というのは、儲けばかりじゃだめなんだ」などと中小企業金融の心得を伝えた。

沼津市は二十年七月の空襲で中心部のほとんどが焦土となった。戦後、中小企業や商店街の復興に向け、先立つものはなんと言ってもカネ。バラックで仮店舗は建てられても、市中銀行は貸し出し制限がかけられ、商品を仕入れる資金を簡単に貸してくれる機関が少なかった。

名取翁は「戦災復興のため、何より先に中小企業者を再起させる金融機関をつくるべき」と決意し、市内有力者らと二十五年、沼津信用組合（翌年、信用金庫に）を創設。沼津商工会議所の一角で業務を始めた。

創立当初は日銭が入る魚市場や青果市場、西浦などの農業組合に協力を求めて預金してもらい、その資金を中小企業や地域の商店に低利で貸し出した。「担保などはほとんど取らなかったそうである」と名取栄一翁伝記は伝える。

担保を入れればどの銀行でも貸し出すが、戦災で傷んだ中小企業者、商店は入れるべき担保がない。名取翁は「事業場が事業をするのではない。人間が事業をするのだ」と経営者の評価に融資基準の重点を置いた。

毎朝十時には出勤。給与は辞退した。「和服の着流し姿が定番。いつもニコニコしていたと聞いている」と堀田大洋同信金専務は、会議室に飾られた和服姿の肖像写真を見上げた。

水上さんは「名取翁は雲上人。二十歳そこそこの行員が話しかけるなんて考えたこともなかったが、取引先からは"名取のおじいさん"と慕われていた」と振り返る。

沼津信用金庫は商都沼津を復活させ、多くの中小メーカーを育成した。今年一月には御殿場市を本拠とする駿河信用金庫と合併。駿東から北駿全域と伊豆の一部をエリアに、県内八位の預金規模の信用金庫となった。

合併を前に五十六年発行の「名取栄一翁小伝」を増刷した諏訪部恭一・六代目理事長は「経済競争の中で、信用金庫も収益第一主義に陥りがち。中小企業を取り巻く環境が厳しい今こそ、名取翁の思いをかみしめ、信金の原点に戻るべき」と言葉に力を込めた。

【沼津信用金庫】本店は沼津市大手町。沼津、御殿場、三島、裾野市などに32店舗。2008年3月期の預金期末残高は3714億円、貸出金は1796億円。

（静新平成20年11月22日「名取栄一翁伝」）

名取栄一翁伝3
没後50年足跡は今3
沼津駅前に13間半道路



昭和5年ごろの国道1号線(旧国道)と沼津駅前通りが交差する付近。広い道の真ん中を路面電車が走っている

地主説得し都市計画

JR沼津駅から真っすぐ南に延びる四車線の駅前通り。この広い幹線道路の骨格は大正末期、まだ沼津市内に自動車が六十台ほどしか普及していなかった時代に、市復興部長を務めた名取栄一翁＝当時(五四)＝の尽力で整備された。

沼津市史によると同市は大正二年の大火、十三年の我入道大火、十五年の大火に相次ぎ襲われた。中でも十五年十二月の大火は、市役所や警察署、病院なども巻き込んだ。焼失は当時の市全戸数の三分の一におよび、市中心部は焦土と化した。

市は焼失地の区画整理を基本とした道路拡張・復興計画を決め、これを執行する部署として復興部を新設。市長推薦で民間から名取翁に部長が委嘱された。

新道路拡張は大幹線を幅十三間半(二四・五^尺)、幹線は十間半などとする画期的な計画だった。だが、地主との換地折衝は難航を極めた。

「道の真ん中で田植えでもするのか」。通る自動車が一日二十台あるかないかの中、店や住居の移転、減歩を強いる区画整理。大正八年まで区長を務めた足元の追手町(現大手町)から猛反対ののろしが上がった。

反対者たちは「都市計画反対」「名取復興部長を葬れ」と、むしろ旗を掲げ、名取邸に押しかけた。だが名取翁は「沼津の将来の発展のために」と全区で地主を訪問。粘り強く折衝を重ね、問題を一つ一つ解決した。

昭和五年ごろ撮影された駅前通りと国道1号線(旧国一通り)の交差点付近の写真を見れば、広い道幅で真ん中に路面電車が通る幹線の完成が分かる。後藤全弘沼津商工会議所会頭は、「(名取翁は)とにかく力があつたと聞く。都市整備では、町の骨格を形作った沼津の創業者とも言える」と評価する。

駅前通り(現さんさん通り)裏手に地元市民が集う会館と神社が建てられた一角がある。「土地の多くは名取翁の寄付」と同町内会の露木博行事務長が教えてくれた。大手町や繭市場(現在の市立図書館)敷地など、多くの土地を所有していたとされる名取翁が子孫に残した不動産は少ない。

名取翁のひ孫、名取正純さん(五〇)＝沼津ヤナセ社長＝は、しのんだ。「栄一翁は『財を残そうと思えば残せたが、性分から住むところだけ残し全部譲った。人脈と信用が残せるもののすべてだ』と遺言したと聞く。確かに形はないが、大きな財産を残してくれた」

【沼津市街地の拡大】市区改正復興事業は、狭小な道路や家屋の乱雑な建て方が大火につながったという反省から断行された。市庁舎が現在の上香貫に完成したのは昭和三年。狩野川への三園橋架橋、上香貫の区画整理などで上香貫方面へ市街地が拡大した。

(静新平成20年11月26日「名取栄一翁3」)

名取栄一翁伝 4
石橋湛山会
東部政財界が後押し



石橋湛山首相の歓迎パレード。石橋首相と並ぶ名取翁
(オープンカー後列右)＝沼津駅前(昭和32年1月)

先月七日、大正ロマン漂う木造建築、沼津市千本郷林の「沼津倶楽部」がレストランとして再オープンした。ここはかつて、県内選出代議士で唯一、首相となった石橋湛山を育てた「湛山会」の拠点の一つだった。

山梨県出身の石橋湛山の静岡第二選挙区(当時)での担ぎ出しを持ちかけたのは、終戦後、初めて行われた総選挙で当選しながら、公職追放となった佐藤虎次郎(元旧清水市長)だったとされる。

解散風が強まった昭和二十二年一月、佐藤は沼津市大手町の名取栄一郎を訪れ、石橋の静岡二区での出馬を相談、同じ山梨出身の名取翁を中心とする沼津政財界の支援を要請した。石橋は当時大蔵大臣だったが、東京の選挙区で落選していた。

快諾した名取翁はその翌日、沼津や御殿場、下田などの政財界を仕切る「名取門下」の幹部を名取邸に集めた。「石橋さんを担ぎ、静岡県から総理を出そう」

同年三月、石橋は本籍を名取邸に移し自由党公認として出馬。名取翁は選挙直前に公職追放の身となったが、県東部の保守が結集して石橋はトップ当選した。

「湛山会」重鎮だった父親の死後、名取翁に目をかけられた勝亦一強沼津観光協会長(七三)は「当時は東部政財界に大物が多かったが、あれだけ集められたのは名取翁だったからこそ」とみる。

三十一年十二月、石橋は首相の座を射止める。翌年一月、沼津駅前に朝から数千人が集まったお国入りパレードで、名取翁はオープンカーに石橋首相と並んで座った。

石橋の代議士五期はさまざまな起伏があった。利益誘導を行わず、演説は大所高所に立った内容がほとんど。若手市議として選挙戦に加わった田上博沼津市議(八三)は「世界平和のため、私が日米ソ中を同盟させる一と街頭演説した時は驚いた」と懐かしむ。

名取翁は三十三年に没するまで石橋を支え続けた。名取栄一翁伝記は「名取翁は石橋氏のために次々と土地を売り、全財産を投げ出したといってもよかった」と記す。

石橋は在任二カ月で病気のため首相の座を降りた。湛山会は石橋湛山の引退後、自然消滅した。やはり父親が湛山会主要メンバーだった沼津倶楽部理事長の林茂樹乗運寺住職(七〇)は「名取翁の大きな人柄、湛山先生の高潔さは絶対忘れてはならない」と、沼津倶楽部の再出発とともに湛山会で培われた政治風土、文化の流れの再興を願う。

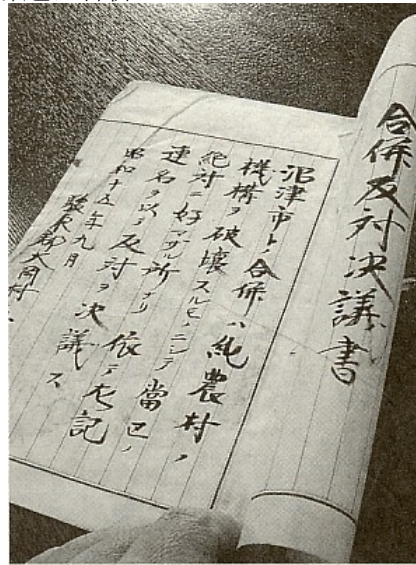
【メモ】石橋湛山(いしばし・たんざん)1884－1973年(明治17－昭和48年)。東京生まれ、1歳で山梨県に。早大卒後、東京毎日新聞社などを経て41年東洋経済新報社社長。47年静岡2区で衆院初当選。56年12月に首相となったが脳梗塞を発症し翌年2月辞任。63年の総選挙で落選し政界引退した。

(静新平成20年11月27日「名取栄一翁伝4」)

名取栄一翁伝5完

没後50年、足跡は今5

統制下、沼津市長に：政策の最大課題は合併



沼津との合併に反対する大岡村上石田区の決議書

「沼津市トノ合併ハ純農村ノ機構ヲ破壊スルモノニシテ絶対二好マザル所ナリ駿東郡大岡村上石田区一」。沼津市明治史料館に、こんな合併反対決議書(昭和十五年)が残されている。当時の沼津市長は名取栄一翁だった。

戦後施行の地方自治法、公職選挙法以前、市長は市議の中から間接選挙で選出されていた。十年から市議を務めていた名取翁は、市長派、反市長派、中立派の三派による意見交換の上、全会一致で次期市長に推された。

名取翁は当初、「器ではない」と固辞したが、議会や経済界、地元大手町町内会の再三の説得を受け受諾。十五年二月、第七代沼津市長に就任した。六十八歳だった。

名取市長は戦時統制の中、出征将兵の遺・家族援護などに尽くすとともに、近隣町村との合併を最大課題に置いた。名取栄一翁伝記は「最大の壁であった愛鷹山組合の改組並びに、門池水利組合の一時清算に成功して、その土台をつくった」としている。

だが、十五年七月、県当局が強くあっせんした沼津、片浜、静浦、大岡、金岡の五市村合併による会談は、決着がつかず挫折した。九月には大岡村上石田の住民が、反対決議を挙げている。翌十六年、名取市長や各村長の奔走で、いったんは大岡、片浜、金岡が合併に傾いた。名取市長は静浦を除く三村との合併を正式に申し入れたが、情勢は逆転し、四市村合併も暗礁に乗り上げた。

十六年十一月、名取市長はわずか一年九カ月で辞表を提出した。名取栄一翁伝記は「健康上の理由」とするが、ひ孫の名取正純さん(五〇)＝沼津ヤナセ社長＝は、「栄一翁の潔癖な性格からして、合併問題の責任をとり辞職したのでは」とみる。

昭和三十三年十一月九日、石橋湛山葬儀委員長の下、名取翁の葬儀に委員として名を連ねた田上博沼津市議(八三)は慨嘆する。「名取先生にしても湛山先生にしても、当時若かった自分は仰ぎ見るしかなかったが、政策に向かう気迫、出处進退の潔さが強く感じられた」

名取翁の没後、半世紀。沼津市は今年、新しい市長を迎えた。栗原裕康新市長は沼津主導の東部合併を最大課題とする。栗原市長は「合併は自分一人の力だけでできるとは思わないが、先人の情熱は受け継ぎたい」と話す。

【メモ】沼津市の合併片浜、静浦、大岡、金岡との合併は昭和19年。歴代市長の努力に、戦争を控えた総力戦の構築という国家的要請で実現した。その後、30年に愛鷹、大平、内浦、西浦、43年には原町、平成17年は戸田と合併したが、政令市を目指した東部5市4町の研究会は今年2月、破たんしている。

(静新平成20年11月28日「名取栄一翁伝：完」)